

5. 須崎沖漁場調査

須崎沖漁場調査

漁業科 浜田英之

昭和61年度に再開された高知県沿岸漁場調査の一環として前年度に引き続き、平成元年度は須崎沖の池ノ浦至久通および神島至大野崎の2海域の海岸地形測量、漁場深淺測量、底質調査等を実施し、漁場図を作成した。

1. 調査方法

(1) 調査海域

須崎市池ノ浦～久通および神島～大野崎の2海域で水深60～80m線付近まで（別図参照）。

(2) 海岸地形測量

海岸地形測量には光波測距儀一体型セオドライト（トプコンEDMセオドライト GUPPY GTS-2B10）を使用した。また、参考資料として国土基本図（国土地理院作成，5,000分の1）を使用した。

(3) 測深調査

調査船として土佐海洋丸（48トン，750馬力）を使用した。

測深機としては土佐海洋丸に装備されている古野電気製，魚群探知機（FE-W822ET，出力2kW，周波数200kc）を使用した。また，海上における測位は借り上げた電波測位機（Electro-Posik，MODEL YM-100）を使用し，30秒毎に実施した。主局と2従局間の距離により描かれる2個の同心円の交角が不良な一部の海域では六分儀を使用して2物標間の夾角も測定した。また，調査船は10ノット前後の速力で航走させた。

測得水深は海上保安庁水路部刊行の潮汐表に記載されている測深日時の土佐清水港の潮高およびパーチェックの結果を用いて補正し，基本水準面（略最低低潮面）下の深さをメートル単位で小数点以下第一位まで示した。

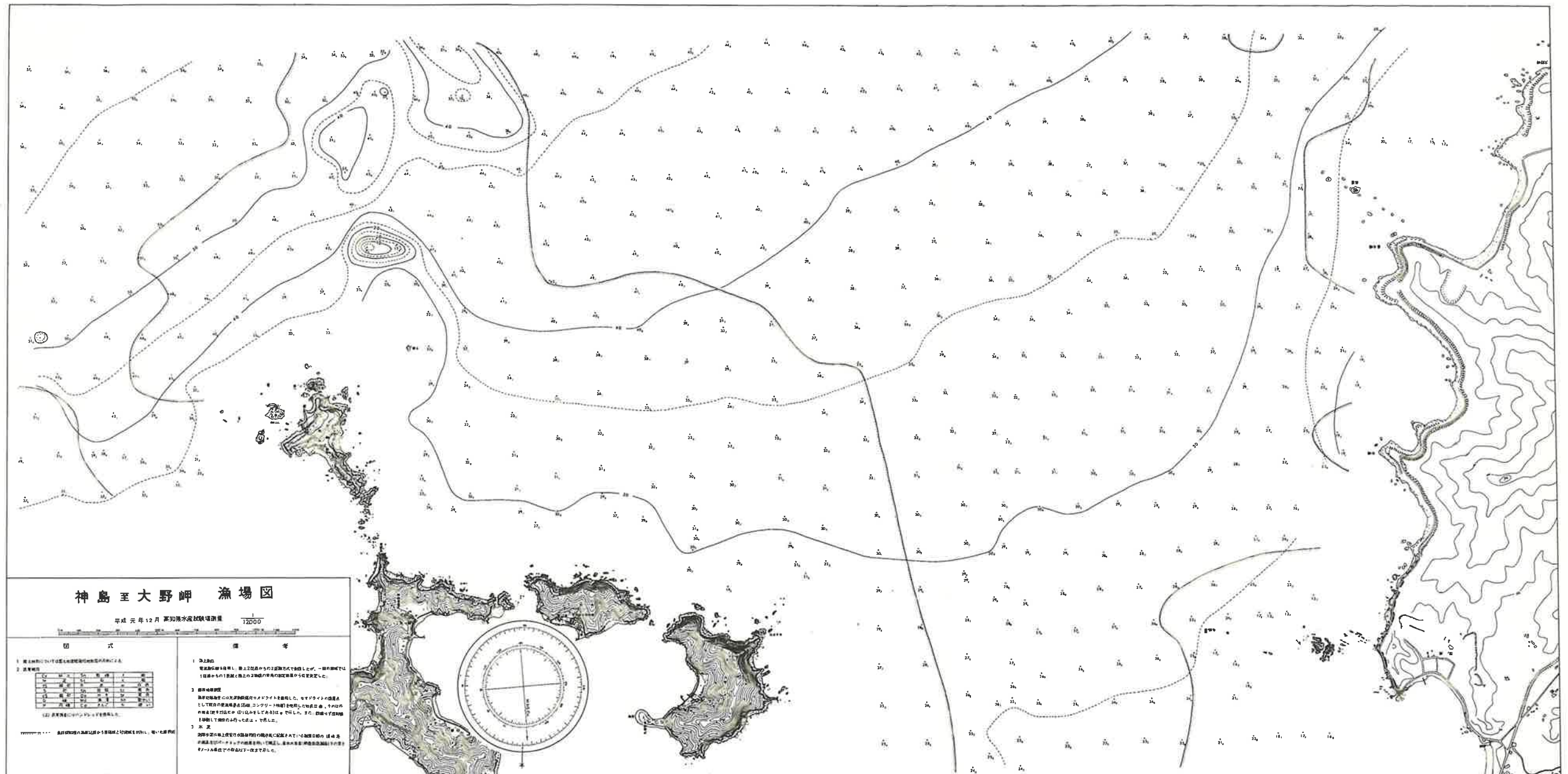
(4) 底質調査

調査海域内の10点でハンドレッドを使用して底質を調査し，その結果と魚探記録を併用し，岩界線等も推定した。

2. 漁場図作成および考察

調査，測量の結果から海岸地形図，航跡図等を作成し，製図作業を経て最終的に後に掲載した漁場図を6,000分の1の縮尺で作成した。

これを見ると、上甲崎及び下甲崎周辺では水深40～45 m線付近まで岩礁域の張り出しが見られるほか、沖合の水深50～55 m線付近にも相当広い岩礁域が2か所存在している。一方、神島沖では水深50 m線に及ぶ広範囲の岩礁域が見られ、中でも水深40 m付近には高さ30 m以上の顕著な岩礁が見られる。



上甲崎至久通 漁場図

平成元年12月 高知県水産試験場調査

1:2,000

図式

1 観測地点について高知県水産試験場の図式による。

記号	説明	記号	説明	記号	説明
○	観測地点	△	水深10m	▽	水深20m
□	水深30m	◇	水深40m	◇	水深50m
◇	水深60m	◇	水深70m	◇	水深80m
◇	水深90m	◇	水深100m	◇	水深110m
◇	水深120m	◇	水深130m	◇	水深140m
◇	水深150m	◇	水深160m	◇	水深170m
◇	水深180m	◇	水深190m	◇	水深200m

(注) 水深測定はハンドレンドを使用した。

----- 高知県水産試験場の図式による水深測定結果を示す。-----

備考

1 観測地点は、観測地点の2倍の水深で測定した。一部の地点では、(注)の水深と異なる水深の観測結果が示されている。

2 水深測定は、水深測定機(ハンドレンド)を使用した。水深測定機は、水深測定機として使用した。水深測定機は、水深測定機として使用した。水深測定機は、水深測定機として使用した。

3 水深測定は、水深測定機(ハンドレンド)を使用した。水深測定機は、水深測定機として使用した。水深測定機は、水深測定機として使用した。水深測定機は、水深測定機として使用した。

